

出かけてみました



## 8月の新疆 炎熱と清涼と

会員 新宅久夫

トルファン盆地、火焰山の前で

します。

鄧小平の号令  
一下、計画経済  
から市場経済に  
移行した当時は、  
貿易取引面で一  
時的に混乱が生  
じたものの、中  
糧の協力と日本  
の輸入割当制度  
(IQ)に守ら  
れ、唯一昆布が  
40年間も安定し  
た取引が続いて  
いるのは、奇跡  
と言っているか  
もしれません。

中国から昆布がたくさん輸入  
されていることをご存知ですか。  
毎年、北京の商業部直轄の中糧  
集団総公司を窓口として、北海  
道漁連を中心に昆布輸入代表団  
が8月中旬に生産地の山東・遼  
寧・福建などを回り、現地で検  
品、値決めを行い、契約を交わ  
りました。

私にとっては18年ぶりの新疆  
で、治安に若干の心配はありま  
したが、中糧側が安全は保証す  
ると言ってくれましたので、良  
いチャンスと思い、ほかの6名  
とともに招待を受けました。

北京空港から

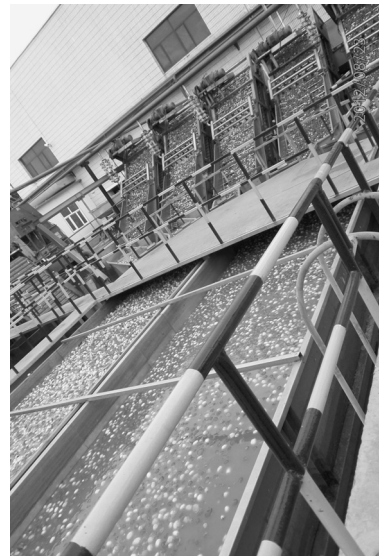
四時間半の飛行  
でウルムチ空港。  
厳重な警戒を抜  
けて高速道路に  
入り、西北方向  
の昌吉市(元回  
族自治州)に向  
かって約40分走  
りました。道路

の両側にはトマト畑が延々と連  
なり、収穫の真最中でした。

市内に入るとイスラム風の建  
物や看板が並びます。男性の頭  
の白い帽子は回族のしるしです。

昌吉市内を過ぎると、「中糧  
屯河昌吉蕃茄製品(有)公司」に着  
きました。新しく開発された工  
業団地の一角に広大な敷地を有  
する中糧の在新疆23の分工場の  
中心的なトマト工場です。

欧州から導入した、自動化の  
進んだプラントが林立しており、  
実験農場は約20万畝(1畝66  
7平米)広さがあります。アメ  
リカのハインツや日本のデルモ  
ント、イギリスのユニリーバと  
提携して、優良品種と技術の提



近代的なトマト加工工場

供を受けつつ、品種改良を進め、  
トマト農家に優良品種の普及と  
指導を行い、長期契約で原料の  
安定供給を図って、世界的に有  
名ブランドのトマト製品のサプ  
ライヤーとなっています。

トマトの生産農家から原料を  
運んでくるトラックの運転手は、  
少数民族のようでしたが、工場  
内の工員や管理職はほとんど漢  
族と見受けました。現地の少数  
民族の若者の雇用が問題になっ  
ていると聞き、その点がいささ  
か気になりました。

新疆は北京時間を採用してい  
ますから、実際の生活感覚では  
2時間の時差があります。

翌朝は早めの朝食を済ませ、

ウルムチから東250キロのトルファンに向かいました。

マイクロバスは貸し切りだから、自由にどこへでも行けますよと言われましたが、初めての人ばかりだったので、定番の観光コースでお願いました。

砂漠地帯や塩湖、発電風車などを車窓から眺めながら、150キロほど高速道路を走り休憩。

その一带は地形的に風の通り道になっているようで、風力発電所の展示場がありました。周辺一带には風力発電の風車が5000基もあり、世界でも最大規模という見事な風景でした。



ブドウ農家で昼食

砂漠地帯には地下資源が豊富で、以前は石炭を燃料に発電していたのが、現在は天然ガスや風力発電となり、汚染も減り青空が帰って来たということでした。高速道路の途中に所どころ建設中の新幹線の橋桁が交差していて、間もなく開通する予定と聞きました。

トルファン盆地に入り西遊記で有名な火焰山付近は、海拔マインナス50メートルの低地で大陸性砂漠気候。日照が強く、降水量が少なく、灼熱地獄です。私が行った時は摂氏68度。太陽光の「茹で卵」を売っていました。

トルファン地区はウイグル族の居住地区。観光化された葡萄溝という峡谷があり、天山山脈の雪解け水を千年以上も昔から、人工の地下水路に流し、それを必要な場所で地上に汲み上げるカレーズ（坎爾井＝縦井戸）によって、ブドウ栽培が盛んです。現在はテーマ・パークができていました。

新疆の観光地の入場料はすべて100元に統一されています。

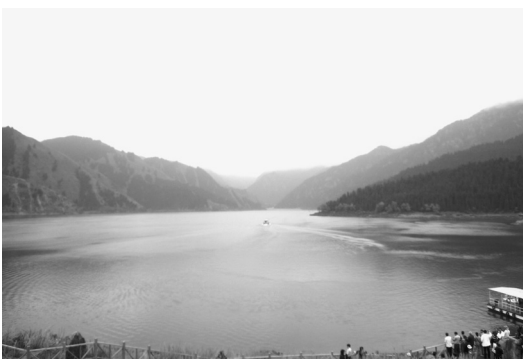
た。昼食は公園内では高いので、大家族のウイグル族の農家で安く済ませることにしました。

その家のご主人は日本語が流暢で、2009年の新疆騒乱以前は、外国の観光客では日本人が一番多かったので日本語を勉強したが、現在は外国人に代わって国内の漢族の客ばかりだと、複雑な気持ちを述べていました。漢代に辺境防衛のために築かれた「交河古城」は日本の援助で修復復元した遺跡で、入口横に陳列館があって、歴史と当時の様子が模型で展示されていました。

帰路、ウルムチ市内の入口で、ハイジャックがあったとかで厳しい安全検査に出会いました。その為イスラム・バザールでの、ウイグル料理の夕食が大幅に遅れました。市内の現人口は約250万人、10年間で漢族が100万人増えたと聞きました。翌日はウルムチから110キロ北、狩猟のカザフ族の居住区、天山天池に向かいました。前日は暑いトルファンを経験、

今日は海拔1900メートルの高地に行くというので、予め気温の変化に備え長袖を準備、登山路を車で上りました。天池に上ると遠景に万年雪の山々が見えます。スイスの風景にそっくり！と、同行の人が叫んでいました。

以前散見したカザフ族の住居「包」（ゲル）は、一箇所に集められ観光村になっていました。道に沿って溪流が勢いよく流れていて、これがやがてカレーズに繋がると思うと、古代人の土木工事に敬意と驚異を感じました。



新疆の秘境「天池」